



平成26年3月13日

各位

会社名 株式会社ACCESS  
代表者名 代表取締役社長 室伏 伸哉  
(コード番号 4813 東証マザーズ)  
問合せ先 社長室長 阿草 明子  
(TEL. 043-212-2232)

平成26年1月期 通期連結業績予想値と実績値との差異、  
個別決算における前事業年度の実績値との差異、  
及び特別損失計上に関するお知らせ

平成25年3月12日に公表しました平成26年1月期連結の通期(平成25年2月1日～平成26年1月31日)業績予想値と実績値との間に差異が生じたのでお知らせいたします。さらに、当社は個別業績予想を開示していませんが、個別決算における当事業年度の実績値が前事業年度の実績値から一定以上変動しましたので併せてお知らせいたします。また、特別損失の計上についてお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想値と実績値との差異

(平成25年2月1日～平成26年1月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)(※)
前回発表予想 (A)	11,800	1,000	1,000	900	23.37
今回実績 (B)	10,922	802	932	193	5.03
増減額 (B-A)	△877	△197	△67	△706	-
増減率 (%)	△7.4	△19.7	△6.7	△78.5	-
(ご参考) 前期実績(平成25年1月期)	11,712	1,425	1,675	2,600	67.06

2. 個別決算における前事業年度の実績値と当事業年度の実績値との差異

(平成25年2月1日～平成26年1月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)(※)
前事業年度実績 (A)	6,436	1,803	1,611	41.55
当事業年度実績 (B)	6,026	1,282	△6,781	△176.05
増減額 (B-A)	△410	△520	△8,392	-
増減率 (%)	△6.4	△28.9	-	-

※ 当社は、平成25年8月1日を効力発生日として普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益につきましては、当該分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

### 3. 差異が生じた理由

#### 【連結】

一部海外子会社における売上の後ろ倒しやネットワーク事業の主要顧客との取引縮小、フロントエンド事業の伸び悩み、及び新規事業の創出における一部遅延等の影響により、売上高が 877 百万円、営業利益が 197 百万円、経常利益が 67 百万円それぞれ期初の業績予想を下回ることになりました。また、上記に加えて、税効果等の影響により、当期純利益が 706 百万円の減少となりました。

#### 【個別】

連結業績と同様の理由により、売上高が 410 百万円、経常利益が 520 百万円それぞれ前事業年度の実績値を下回ることになりました。また、次項に記載の特別損失等の発生により、当期純利益が 8,392 百万円の減少となりました。

### 4. 個別決算における特別損失の発生及びその内容について

平成 26 年 1 月期の個別決算において、当社連結子会社であるアイピー・インフュージョン・インクの株式に係る関係会社株式評価損 7,479 百万円を含む特別損失 7,556 百万円を計上いたしました。

なお、関係会社株式評価損は当社の個別財務諸表上に計上されるものでありますが、連結業績に与える影響はなく、また現金支出を伴わない会計上の処理であります。

当社グループのネットワークソフト事業を担うアイピー・インフュージョン・インクは、当社が平成 19 年 1 月期に株式取得により子会社化して以来、平成 25 年 1 月期まで順調に売上高を伸ばしてまいりましたが、一方で、事業成長を実現するためのグローバルでの営業・開発体制の強化へ向けた先行投資により継続的に営業赤字を計上する状況にありました。平成 26 年 1 月期において、開発拠点のインド移管等の抜本的なコスト構造の見直しを実施した結果、同社のネットワークソフト事業の黒字化を達成しましたが、売上高の相当程度を占める主要顧客との取引規模が縮小する等、売上高が前年比で減少しております。当該状況を踏まえて、アイピー・インフュージョン・インク単体に計上されるのれん（同社株式取得時の超過収益力）について会計監査人との慎重な協議を行ってまいりました結果、当該事業年度においてこれを減損処理するとともに、当社の個別決算において関係会社株式評価損を計上することとなりました。なお、連結財務諸表上は既に当該のれんを償却済みでありますため、今回の処理に伴い連結業績に与える影響はありません。

アイピー・インフュージョン・インクの今後の事業展開であります。主要顧客との取引規模の縮小により一時的な売上減少が見込まれるものの、クラウド連携サービス及びネットワーク環境の高度化が急速に進展する事業環境の下、これらに不可欠となるネットワーク関連分野での事業機会の獲得に引き続き注力してまいります。従来より高い実績を有するネットワーク機器向け基盤ソフトウェア・プラットフォーム「ZebOS®」の開発・拡販に加え、アイピー・インフュージョン・インクの高い技術力を活かし、次世代ネットワーク技術であるネットワーク仮想化技術 SDN（Software Defined Network）やネットワーク機能仮想化技術 NFV（Network Function Virtualization）等を他社に先駆けて手掛けることで、再成長を目指してまいります。

### 5. 経営責任の明確化

平成 26 年 1 月期におきましては、継続的な増収増益へ向けた事業基盤の確立を重要な経営課題に掲げ取り組みました。しかしながら、当該取り組みに遅れが生じ、事業基盤の確立にはなお暫くの時間を要する状況にあります。この経営責任の明確化の一環として、平成 25 年 5 月 31 日付「株式報酬型ストックオプションとしての新株予約権の発行に関するお知らせ」のとおり当社取締役 4 名が付与を受けた新株予約権について自主的に放棄する申し出がなされました。なお、かかる放棄の申し出を受けた当該新株予約権合計 800 個（80,000 株）は消滅いたします。

以 上